

昭和二十六年 全日本学生ヨット選手権大会

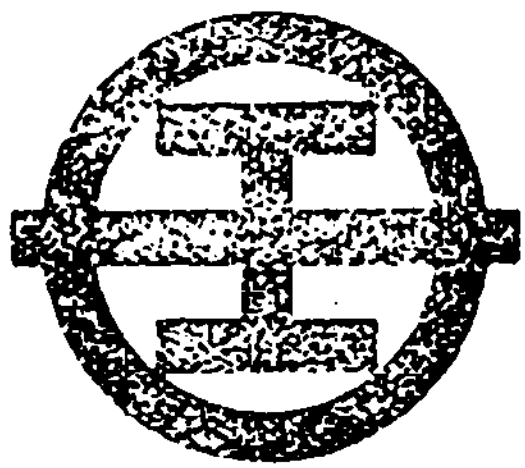
期 日 昭和二十六年八月二日～五日

会 場 松 島 灣

主 催 日 本 ヨ ッ ト 協 会

後 援 宮城縣、宮城縣教育委員会、宮城縣
体育協会、仙台市、塩釜市、塩釜市
体育協会、松島町、塩釜海上保安部
宮城縣海洋会、河北新報社、仙台中
央放送局

主 管 東北ヨット協会、宮城縣ヨット連盟



運動用品

夏をゆるく

藤山崎



祝全日本學生ヨット選手権大會

東北のおみやげ

仙台驛前

明るく

新しい

丸光

大 會 日 程

開 會 式 八 月 二 日 午 后 五 時

開 會 式 次 第
 開 會 宣 言
 大 會 長 挨 拶
 來 賓 祝 辭
 帆 走 委 員 長 挨 拶
 選 手 宣 言

競 技 日 程

第 一 日 八 月 三 日 (金) 予 選

ス ナ イ プ 級		A 級 12 呎 デ イ キ ー	
A 組	第一回戦 9.00	A 組	第一回戦 9.10
B 組	第一回戦 10.50	B 組	第一回戦 11.00
C 組	第一回戦 12.40	C 組	第一回戦 12.50
A 組	第二回戦 14.30	A 組	第二回戦 14.40
B 組	第二回戦 16.20	B 組	第二回戦 16.30

第 二 日 八 月 四 日 (土) 予 選

ス ナ イ プ 級		A 級 12 呎 デ イ キ ー	
C 組	第二回戦 9.00	C 組	第二回戦 9.10
A 組	第三回戦 10.50	A 組	第三回戦 11.00
B 組	第三回戦 12.40	B 組	第三回戦 12.50
C 組	第三回戦 14.30	C 組	第三回戦 14.40

第 三 日 八 月 五 日 (日) 決 勝

ス ナ イ プ 級		A 級 12 呎 デ イ キ ー	
第一回戦	9.00	第一回戦	9.10
第二回戦	11.00	第二回戦	11.10
第三回戦	13.00	第三回戦	13.10

閉 會 式 八 月 五 日 (日) 午 后 三 時 三 十 分

閉 會 式 次 第
 成 績 發 表
 帆 走 委 員 長 講 評
 大 會 委 員 長 挨 拶
 來 賓 挨 拶
 閉 會 宣 言

松 島 海 岸

觀

白

月

鷗

樓

樓

電(松島)五五番

電(松島)二九番

皆様で是非一度

水 族 館

松島町雄島前

東北電力株式會社

松島觀光協會

電(松島)四一番

太洋漁業株式會社

塩釜營業部

塩釜市門前125

電 話 { 169番
229番
942番

大 會 役 員

名譽大會長				佐々木家壽治				名譽副會長				櫻井辰治									
大 會 長				關 谷 健 哉																	
名	譽	大	會	問	栗	野	豐	助	安	西	正	道	五十	嵐	正	之	助	伊	澤	平	勝
				次	岩	本	正	樹	岡	崎	榮	松	金	森	太	太	郎	金	山	竜	重
大	會	長	長	郎	今	野	貞	亮	坂	本	末	晃	崎	川	義	忠	雄	桜	井	竜	四
				助	佐	藤	信	四	塩	谷		吉	東	海	房	太	七	高	須	清	郎
順	大	會	長	新	渡	橋	里	美	土	井	清		三	澤		郎	宮	城	香	三	郎
				一	安	辺	男	二					尾	見	犬	進			五	郎	郎
參	大	會	長	英	木	細	廣	志	板	宮	文	三	尼	兄	倉	了	龜	井	運	藤	
				與	大	下	勝	彰	木	村	要	藏	桜	井	賢	吉	佐	木	承	周	一
大	會	委	員	(長)	中	井	直	二	和	川	欣	之	介	山	本	房	吉	竹	下	政	彦
				彰	小	澤	吉	太	前	輝	雄	今	井	彦	良	平	野	和	夫		
帆	總	報	施	(長)	湯	上	正	喬	福	島	弘	毅	介	須	藤	辰	治	灘	谷	五	郎
				雄	山	澤	二	雄	今	村	意	門	協	忠	元	佐	藤	正	雄		
經	接	宿	庶	(長)	片	桐	豐	城	横	山	好	翠	成	二	村	健	三				
				(長)	千	葉	甲	(副)	野	清	朗	加	藤	あ	子						
衛	競	中	里	(長)	板	倉	信	夫	関	田	洋	一	進	杉	澤	い	五				
				(長)	富	官	敬	平	和	葉	昌	雄	太	田	德	三					
發	小	記	通	(長)	伊	藤	長	而	千	越		敬		島	田	平	八	丸	山	充	夫
				(長)	貴	家	寬	(副)	三	浦	越										
大	會	長	長	(長)	西	澤	忠	吉	川	田	清										
				(長)	原	川	俊	作	宗												
大	會	長	長	(長)	小	島	達	矢													
				(長)	江	部	貞	四													
大	會	長	長	(長)	渡	辺	多	郎													
				(長)	岡	田	多	男	小	町	幹	男									

祝 全日本学生ヨット選手権大会

七 十 七 銀 行

出場校選手一覽

北	海	道	大	學	司	谷	川	高	士	下	國	雄	三	中	村	哲	也	久	保	邑	男
東	鈴	木	山	淳	世	竹	本	一	郎	渡	迎	道	夫	物	應	殿	田	中	滿	穗	
東	神	山	野	茂	樹	坂	本	藤	吉	瀧	澤	道	清	田	向	一	藤	田	行	德	
早	岡	野	大	英	一	赤	坂	東	光	早	坂	周	一	協	坂	健	大	原	武	保	
中	北	水	部	學	郎	加	納	寬	文	平	野	節	夫	古	川	三	羽	井	武	榮	
慶	垂	川	梁	英	二	丸	島	信	博	武	藤	實	了	瀨	岡	夫	石	非	一	一	
立	阿	大	小	喜	義	西	橋	三	直	田	中	高	非	誠	岡	崎	富	田	富	城	
名	小	大	京	令	二	高	岡	佳	茂	山	葛	高	朔	誠	岡	和	富	田	水	寬	
古	京	大	小	學	義	森	田	弘	弘	三	郎	米	川	秀	屋	德	石	廣	章	夫	
河	大	大	大	一	石	井	井	美	岡	石	川	野	野	久	島	英	石	井	淳	郎	
山	澤	神	神	學	也	森	治	一	博	澤	健	一	彦	石	孝	武	宮	口	一	久	
高	塚	田	田	徹	雄	潮	下	豐	金	南	部	昌	次	楠	昭	三	江	內	正	正	
志	墊	大	大	正	慶	伯	村	克	田	米	澤	昌	也	仙	忠	赴	田	雄	三	二	
岡	川	澤	澤	學	行	松	吉	守	幹	松	本	和	邦	北	隆	雄	部	昭	榮	彦	
白	井	塚	塚	孝	篤	川	月	照	秋	內	井	宏	宏	上	光	明	橋	田	盛	博	
都	大	大	大	正	男	末	川	郎	己	坂	町	村	卷	根	夫	秀	谷	川	男	弘	
小	崎	大	大	學	郎	鎮	原	茂	治	東	島	藤	池	中	時	雄	村	木	康	健	
西	屋	崎	崎	篤	幸	武	利	昌	寬	高	義	宏	良	秀	秀	夫	澤	上	男	浩	
池	井	屋	井	保	瑛	高	健	一	男	信	夫	小	昌	松	帽	和	川	上	三	治	
青	井	井	井	幸	瑛	淺	一	博	大	福	岡	小	昌	二	川	介	古	上	司	一	
西	井	井	井	幸	瑛	間	根	輔	助	郁	夫	小	昌	長	中	三	水	野	博	司	
米	井	井	井	幸	瑛	久	謙	之	行	柴	岡	小	昌	森	孝	美	東	澤	利	一	
山	井	井	井	幸	瑛	阿	山	彰	之	服	夫	小	昌	二	忠	修	野	口	孝	之	
州	井	井	井	幸	瑛	野	木	安	修	近	岡	小	昌	英	宮	郎	山	田	祐	昭	
森	井	井	井	幸	瑛	森	宮	敬	川	津	雄	小	昌	二	直	文	村	尾	保	收	
	井	井	井	幸	瑛	村	本	充	男	二	田	小	昌	家	啓	敬	井	井	一	永	
	井	井	井	幸	瑛	間	榮	崎	正	沼	瀨	小	昌	栗	史	郎	立	立	彦	坦	
	井	井	井	幸	瑛	山	之	悅	健	高	井	小	昌	三	一	男	川	川	之	人	
	井	井	井	幸	瑛	阿	中	歲	男	河	井	小	昌	伊	多	敬	立	立	一	彦	
	井	井	井	幸	瑛	野	藤		正	松	本	小	昌	竹	義	郎	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	森	榮		之	森	幸	小	昌	千	精	彦	村	村	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	村	之		保	大	岡	小	昌	吉	昭	太	立	立	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	間	彰		守	吉	田	小	昌	河	一	郎	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	山	敬		守	小	田	小	昌	浦	三	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	阿	充		守	石	田	小	昌	滯	郎	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	野	崎		守	川	田	小	昌	小	三	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	森	悅		守	吉	田	小	昌	明	一	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	村	俊		守	田	田	小	昌	行	敬	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	山	信		守	國	田	小	昌	正	永	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	阿	保		守	康	田	小	昌	明	和	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	野	行		守	健	田	小	昌	正	松	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	村	進		守	山	田	小	昌	正	和	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	山	保		守	山	田	小	昌	正	和	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	阿	久		守	山	田	小	昌	正	和	誠	井	井	一	坦	
	井	井	井	幸	瑛	野	高		守	山	田	小	昌	正	和	誠	井	井	一	坦	

A組予選記録表

校名	艇種	選手名	第一回戦			第二回戦			第三回戦			総得点	順位
			帆番	着順	得点	帆番	着順	得点	帆番	着順	得点		
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												

今野洋服店

営業所 仙台東一55 TEL:2561
工場 仙台二十人町 TEL.1462

マルカン豆

(味付落花生)
十四粒で生玉子一個の栄養価が
あります
仙 台 驛 前

B 組 予 選 記 録 表

校名	艇種	選手名	第一回戦			第二回戦			第三回戦			總得点	順位
			帆番	着順	得点	帆番	着順	得点	帆番	着順	得点		
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												

大武寫眞館

仙台市大町五丁目十一番地
電話三三八三番

運越引物長重量切貸
便行急口小期定

宮城貨物自動車

運送株式会社

仙台市東七番丁122

C組予選記録表

校名	艇種	選手名	第一回戦			第二回戦			第三回戦			総得点	順位
			帆番	着順	得点	帆番	着順	得点	帆番	着順	得点		
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												

新東宝 東宝 大映 東映

選 択 封 切

仙 台 國 際 劇 場

東 一 番 丁 TEL 4498

皆様の心に
再び訪れる感動

名 畫 選 擇 上 映 館

仙 台 東 北 劇 場

決勝記錄表

校名	艇種	選手名	第一回戰			第二回戰			第三回戰			總得点	順位
			帆番	着順	得点	帆番	着順	得点	帆番	着順	得点		
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												
	A												
	S												

総合得点表

	校名	得点	A級12呎 デイギ-	スナイプ	合計	順位
A組 豫選						
B組 豫選						
C組 豫選						
決 勝						

得点方法

各回に於ける得点は順位を出場艇数より引き、それに1を足したものの。例えば10艇中1位は10点、2位は9点という方法である。

優勝を決定する総合得点は、スナイプデイギ-の総得点を合わせたものである。

ニューデザイン

紳士服・婦人服

東北大学指定

大丸服装店

大學本部前 電4565

流れ出ずる

交響曲

田園

純コーヒー

東一 大學正門通り

カメラと
フィルム

コセキ

仙台市役所前 電3341

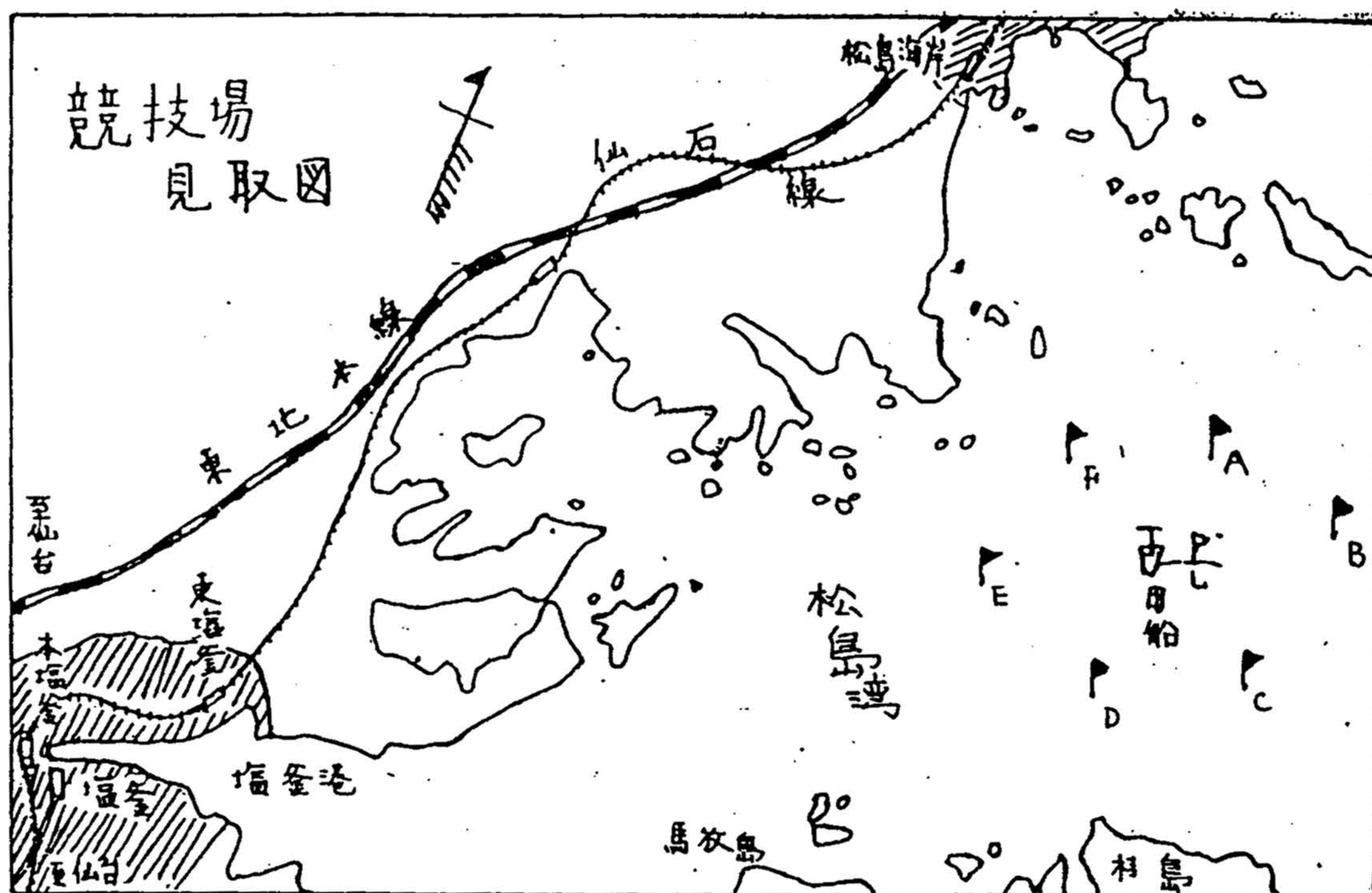
時計
装身具
優勝カップ

三原堂

仙台新傳馬町
電話三三二八

伊澤書房

仙臺東一
電四一六五番



ヨットレースについて

- ① 艇の種類 ヨットには一人乗りから数十人乗り迄あるが、日本では下記の様な小型のものより無い。

名 称	帆の記号	乗 員	名 称	帆の記号	乗 員
A級 12呎ディギー	A	1 — 3	Lクラス18呎	L	2 — 5
ス ナ イ プ		2 — 4	スタークラス	★	3 — 7
五 米 級	V	2 — 4	クルーザー	C	3 — 10

- ② コー ス 母船Sを中心として直径1哩及至5哩（艇の大きさによる）の円周上に標識A・B・C……を六ヶ及至八ヶ設置し、母船Sの附近にリミットマークL（これは時々位置を変更する事がある）を設置する。コースは風向によつて帆走委員会が各レース毎に適宜決定する。選手はレースの始まる前に帆走指示書によりその時の帆走方向及標識の廻航順序を示される。第三図はS—A—G—F—A—G—E—Sの順序に廻る場合を示してある。スタート及びゴールインの時は必ずSとLの間を通らねばならない。スタートから第一マーク迄は大休上りコースを取る様マークの選定をする。（第三図参照）

- ③ 發 艇 法 出発時刻十分前に信号柱上に級旗（競走艇の種類を表はす旗で12呎級ならばO旗）を掲げて予告する。五分前になるとP旗（出帆旗）を掲げ、予め信号柱に用意された標識球（第三図参照）を一分毎に降下し、出発時にはP旗と最後に残つた標識球とを同時に降下して合図する。

- ④ 出 發 競走艇はそれ迄は出発線S—L附近を任意に帆走して好位置より発艇出来る様努力し、合図と同時にS・Lの間から出発する。もし艇の一部でもS—Lの線より前に出て居る艇があれば、その艇は後へ戻りスタートをやり直さねばならない。（此れをリコールと云ふ）

⑤ 走 法 第三図の如き風向とするとA——G——Eは追手で順走するから楽であるが、S——A、E——A、E——Sは風向であるから詰開きで航走せねばならない。選手の腕の出どころは此のコースである。然し向い風であるからE——Aのコースを真直ぐに走る事が出来ず、勢い(イ)か(ハ)のコースをとつてロングタツクで行くか(ロ)のコースをとつてショートタツクで行くかしなければならぬ。選手は此の何れのコースをとるか云ふ事を風向、潮流等の条件を考へ合せて決定するのであるから、此E——Aのコースはマチマチに航走して、ヨツトレースを知らないものではどの艇が勝つて居るのか全然判断がつかない。第三図のE——Aコースの三艇を考へれば(イ)が最も優つて居り(ハ)が最も劣つて居るのである。尙此等のコースを航走中後述の帆走規則に則つて選手は、自艇を少しでも優位に置いて他の艇に牽制される事無く楽に競走出来る様に心掛けるから、二隻以上の艇が近づいた時は特にその技術をつかう事を見逃してはならない。

⑥ 帆 走 規 則 道路を歩くにも左側通行と云ふ規則を設けて混雑を避ける様に、海上にあつても衝突の危険を避ける規則を作つてある。その主なものを挙げれば、

- a. 左開艇は右開艇を避ける事
- b. 風上艇は風下艇を避ける事
- c. 順走艇は詰開艇を避ける事
- d. 他艇を追越す場合は被追越艇の通路を避ける事
- e. 他艇の直前で廻航動作をし衝突のおそれあるときは廻航動作をせぬこと
- f. 廻航標識に接触しない事

其の他澤山の規則があつて、衝突の危険を防止し、不正な航走を制限して居る。此の規則は出発五分前よりゴールイン迄適用される。万一此の規則を犯した艇があつた場合は、帆走委員会は自発的に或は競走艇の抗議に基いて失格とする事が出来る。

⑦ 順 位 ヨツトレースでは数回のレースを行い、各回の得点の合計を以て順位を決する。各回の得点は第一着が最も多く到着順により漸減する。但し帆走規則の項で説明した失格者は零点となり、次の者の得点が繰り上げられるから、他の競技の様にゴールインしたら直ちに順位が決定するのでは無く、帆走委員会の判定を待たなければ選手の得点はわからない。

帆 走 の 手 引

① 詰 開 き【クローズホールド】

これは出来るだけ風上に向つて進路をとる場合である。

此には右舷（スターボート）から風を受けて走る右舷詰開きと、反対の左舷（ポート）詰開きとがある。（第一図甲参照）ヨットでは甲の点線の様に風の吹いて来る方向には走れない。舵を動かして次第に風と角度を生じて来るとばたばたして居た帆に風をはらんで走り出す様になるのであつて、風に対してこれ以上角度をへらす事が出来ない角度（ $30^{\circ} \sim 45^{\circ}$ ）で走る事が詰開きである。

② 順 走【フ リ ー】

これは詰開き以外の走り方を云うのである。船が風の方に垂直の場合をウインドアビーム（丙参照）此より風に対して切り上つた場合リーチング（乙参照）角度が 90° 以上の場合（風下に落すとも云ふ）をランニング（丁参照）と云ふ。

③ 帆 走 方 法

以上の各方向に走る様、帆に一杯風をはらませて帆索（シート）を引込んだり、弛めたりして帆の位置を最も効果的に決めねばならぬ。が大体は帆が艇と風の方の二等分線より稍引込み加減の処が最もよい。

今、風とある角度を取つてヨットが浮いて居る場合を考へて見ると、シートを充分弛めて置けば帆は風に流れてバタバタする。此の位置からシートを引込んで風と艇の方の大体二等分線の処迄帆を引いて来れば、シートに風の力を感じて走り始める。此の状態より帆桁（ブーム）を稍引込む様にシートを締めて置けば、此の風の方に対して此の艇の方としては最大の速力を得るのである。

副帆（ジブ）の位置は主帆（メンスル）の開いて居る側、即ち風下側のシートを緊めて、メンスルと殆ど平行にし、メンスルが風上側へふくれ上らぬ程度にすればよい。但し第一図丁の如く、真追手の場合はジブを側着開きにする場合もある。

センターボード（艇の真中にあつて上下出来る様になつた鉄板）はクローズホールドの時は完全に下し、真追手の時は完全に上げ、その他の場合はその範囲内で適宜上下して艇の横たりを防ぐのであるが、初心の内は常に下して置いた方がよい。

④ 方 向 轉 換

上手廻し（タッキング）は第二図甲の如く、例へば左舷詰開きで航走中、右舷詰開きに轉換するには先づ舵柄（チラー）を風下に押して艇を風に立てると帆がバタバタする。ジブを其儘にして置けばジブに受ける風力と艇の惰力とで艇は右舷から風を受ける様になる。そこで副帆索（ジブシート）を今迄と反対側に緊めて帆走を始める。下手廻し（ウェヤリング）は艇尾から風を受けながら廻轉するもので、例へば第二図乙の如く右舷順走で航走中、左舷順走に轉換するにはやゝ落し氣味に舵を引くと同時に手早くシートを引込んで帆を反対舷に持つて来て、シートを弛める様にして帆を開かせる。此の時シートやチラーを手離すと急に方向轉換をし過ぎるから注意を要する。尙強風の際は危険を作ふから自信の無い限り方向轉換はタッキングによる方が安全である。

ヨットへのお誘い

ヨットは危険なものではない

ヨットを始めて見た方は、あんなに傾斜する艇は怖いとよく云いますが、外見氣樂そうに見える傾斜しない追手の時の方が注意を要するのです。艇による危険は大休落水、転覆、沈没、漂流、船具による怪傷等です。何のスポーツでも不注意で居る事がいけないので、注意さえしておれば危険は充分避けられます。特に我国のヨットは小さく操縦が簡単なので、危険性は更に少く、たとえ泳げないものが落水してもすぐに引き返す事が出来るので、救助する余裕は充分にありますし、又外傷は御宅に居る時と変わらない機会に起るものですから、注意次第で皆無と云う事が出来ます。転覆はヨットを始める時適当な指導を受け、後は此の教へを守り、無理さえしなければ避けられます。万一転覆しても特別に大きな艇でない限り二三日は充分浮いてますから、艇につかまつてさえ居れば絶対に溺れる心配はありません。漂流する事は先づ無いと云えます。我々の程度の艇では他の船舶に会わない所まで流される事は考えられません。

ヨットを通じて海洋を知り

自然に親しめ、何事でも趣味が無くては永續きはしません。ヨットは楽しさ面白さの点では他に類がありません。然し自然の風を利用する丈ですから、海の変化に氣を附けなければなりません。従つて不知不識の間に海に慣れる様になります。その上、天候其の他自然現象にも親しくなります。海を知り、自然に親しむにはヨットに勝るものはありません。ヨットによる事が最上の方法です。

ヨットを通じて人生を學べ

ヨットは風しか利用しませんから、無理と云う事が出来ません。あせつても駄目です。自然に従う事がヨットの唯一の教理です。

海に出るには常に周到な注意が必要です。之を怠れば相当な危険に遭遇します。注意深くする事がヨットの常識です。艇に乗つて居る時は、乗員相互の協同動作が必要です。然も自分が艇長となつては責任を以つて其の艇を統御しなければなりません。又自分が乗組員になつた時は艇長を助けて、自分の仕事を責任を以て爲しとげねばなりません。

その上、人格以上に偉大な海に、自然に、絶えず接して居るのです。人生の修養上ヨットを通じて教えられるところは少くありません。

ヨットは大衆のスポーツ

ヨットは余り紹介されなかつたため普及しませんでした。老若男女誰にでも適するスポーツで、一度試みた方で、もうこりたと云つた方は一人もありません。また自分で艇を持たねば楽しめないと云うものでもなく、海岸や湖岸特に国立公園を始め、諸々の観光地にある様な貸ヨットを利用すれば簡単にヨットを楽しめます。

日本ヨット協會

海洋思想の普及とヨット界の発展をはかつているアマチュアのスポーツ団体で北海道、東北、関東、中部日本、近畿、関西、中国、九州の地方ヨット協會により構成されています。会員は何時でも艇庫から自分達の艇を操縦して、海を楽しみながら心身を練つています。会員には一切の資格制限がありません。

初心者に最適の松島灣

日本三景の一つである松島灣は、周囲の数多の島々が外洋の大波を防ぎ、初心者にとつては樂にヨットが習得出来ますし、遭難の危険は絶対にありません。

尙ヨットに関する御質問は東北ヨット協會（仙台市片平丁東北大学補導課内）へ御相談下さい

祝 全日本学生ヨット選手権大会

諸機械工具商

遠藤貞固商店

仙台市東三番丁159

多門通り 電2697番

島田製作所

仙台市東九番丁84

電 3 6 4 番

仙台名産

埋木細工

製造元 安齋商店

賣店 仙台名掛丁八〇
電 五三七六

西松建設
株式会社

東北支店

仙台大町二丁目八番地
電代表八一三番

時計は

三原本店

仙台大町

東海林商店

塩釜市築港三

電 9 4 ・ 1 0 4

衣料品

株式會社 今野屋

塩釜市

電話 5 3 1 番

塩釜信用組合

塩釜市尾島町五一

塩釜

さふらん湯本舗

遊佐一貫堂

塩釜神社下

学校用擴聲機
電音・ラジオ部品

大竹電気

仙台市東一番丁十六
電話二七七二番

株式会社

塩釜倉庫

塩釜市字港八番地

電 3 1 2 ・ 6 6 7

カメラの事なら何でも修理
其の他特殊物

スツキリシタ

微粒子現像

(マイクロドール)

(D K 2 0)

美しい引伸

東一青葉通角 小林カメラ店

祈 代表選手各位の御健闘を

折詰仕出し

出前迅速

蛇の目寿司

塩釜市稻荷下
電 207番

会社
株式

極洋捕鯨東部支社

塩釜市笠神一本松
電話代表九二七番

鹽釜親映會

塩釜大映
塩釜東寶劇場
松竹映畫劇場
港劇場

株式會社

東北水産

塩釜市港
電代表二八三

船具・漁具
株式會社

三亥商店

塩釜市字尾島1ノ3

銘酒 福釜正宗

麴屋商店

鈴木裕吉

電(塩釜) 19

皆様

お揃ひで

ミナト映畫劇場へ

塩釜市町五五三
電一、一三六番

銘酒

勝來

鈴木正護吟醸
塩釜市門前

鈴木屋かまぼこ店

塩釜港仁井町
電一四七

白いセー ルに輝く松島

松島名産

鰻——蒲——焼

白翠会指定

尾 張 屋

(貸ボート部)

松島海岸

鰻 大 蒲 焼

季節向御料理

何卒御用命下さい

東北大学ヨット部指定食堂

松 風

松島五大堂前

電話 112 番

塩 釜

東北大学ヨット部指定

生ビール
喫茶
お食

精 養 軒

学生様には二割引

サービス致します

鹽釜稻荷下 51

(望月旅館下)

木造船・ヨット

西 澤 造 船 所

松島海岸

松島物産組合

浅野本店

軒端屋

金松屋

鈴木屋

秋田屋

浅野支店

稻葉屋

清野物産店

夏期保證

名物

壽の三色最中

仙台市本櫓丁
デンワ三三三九

カフェー

リボン

仙台市錦映画館隣

九重本舗
御菓子司

玉

澤

せんだい
電一三二二二

仙台

土産



仙台市東一丁目
こけし屋

信用のある品を安く賣る
縣下各學校御用

遠藤運動具店

仙台市新傳馬町三番地
電五三八三

銘産
しほがま菓子
藻潮糖本舗

パンと菓子
平塚製菓

仙臺市東一番丁青葉通角
(電四九一五)
鹽釜市海岸通(電二二一)

ビールは
東北一

キリンビヤホール

仙台市東一
TEL二八六〇

仙台銘菓
さんさしぐれ

開化庵本家

仙台市南光院丁入口

和菓子

利久

大町四丁目
電話三六四四

長崎屋カステラー
かすていら饅頭

長崎屋

仙台市廣瀬通り(東三角)